B 48　成人男子用の衣料サイズに関する研究

京都女大家政 ○島山絹江　三重大教育　伊藤令子
ノートルダム女大　桝田　廣

目的　成人男子の身体計測値資料を用いて、成人男子の体型を把握すると共に、昭和55年3月に改定された既製衣料サイズの表示寸法と身体計測値がどの程度適合するか、サイズシステムについて検討した。

方法　資料は、1981年に計測された大阪府内在住の成人男子（19歳～59歳）570名の身体計測値である。計測方法は「衣服寸法設定のための身体計測実施要領」に準拠した。研究項目は25項目である。

結果　1）年齢区分による体型変化について、身長では20～24歳のグループで平均値168.8cmと最高値を示し、加齢と共に除々に低い傾向となり、55～59歳では161.6cmとなってその差は約7cmであった。周径項目では逆に増加の傾向を示し、19歳と50～54歳のグループ間で胸囲約4cmの増加となり、更に下胴囲、腹囲では約10cm増加し、加齢と共にずん胴の体型に移行している。しかし四肢の周径項目について年齢的な変化は認められなかった。
2）成人男子用衣料サイズの適合性について、フイット性を必要とする背広服類の衣料サイズについては、「身長一胸囲一胴囲」のサイズマトリックスに身体寸法をプロットしてみると、7体型とも適合する人は僅少であり全体の約20%位であった。現行の衣料サイズが90サイズも設けられているにもかかわらず本資料において適合する人が少なかったのは、特に身長160,165,170cmのグループであった。この要因は胸囲と胴囲のサイズ構成が大きい方に設定されスライドしているためであると考えられる。したがって中心サイズや胸囲の小さいサイズにおいて胸囲一胴囲のサイズ構成を再検討する必要があると思われる。